

議 事 要 旨

議 事 要 旨	
会 議 名	徳島県がん診療連携協議会 診療連携部会
日 時	平成30年12月11日(月) 19:00~20:15
場 所	徳島大学病院大会議室 (中央診療棟5階)
出 席 者	滝沢会長、金山部会長、福森委員(徳島大学病院)、広瀬委員(県立中央病院)、石倉委員(徳島赤十字病院)、日野委員(徳島市民病院)、漆川委員(徳島県鳴門病院) 住友委員(県立三好病院)、寺嶋委員(緩和ケア部会長)、水口委員(徳島県薬剤師会) 居村委員(肝がん部会)、六車委員(胃がん部会)、西村委員(子宮がん部会)、岡久委員(大腸がん部会) 中東委員(徳島県介護支援専門員協会)、宮本委員(患者会) 山口委員(徳島県歯科医師会)
欠 席 者	吉田委員(阿南共栄病院)、林委員(吉野川医療センター)、田中委員(阿南中央病院) 坂東委員(県立海部病院)、藤原委員(阿波病院)、鎌村委員(徳島県健康増進課)、木下委員(徳島県医師会)
陪 席	徳島大学病院医事課: 小林副課長、古田専門職員、宮越事務補佐員 徳島大学病院: 三木看護師長 健康増進課: 原田課長補佐 徳島県立三好病院: 吉田氏
<p>【議題1】 各がんの診療連携の状況について</p> <p>最初に、金山徳島県がん診療連携協議会 診療連携部会長(以下、金山部会長という。)司会進行のもと、徳島県がん診療連携協議会 診療連携部会が開催された。開催にあたり、徳島県がん診療連携協議会滝沢会長から挨拶があった。</p> <p>1. 徳島県生活習慣病管理指導協議会の各がん部会より報告があった。</p> <p>①肺がん部会: 住友委員から、肺がん部会は今年度まだ6月に開催した1回のみで来月に開催予定であるとの報告があった。広瀬委員から、6月に開催された肺がん部会では検診や電子タバコの話が話題にあった。東京オリンピックも開催されることから禁煙が広がっているが電子タバコについてはあまり周知されていないため、議論された。次回の部会で検討行いたいとの意見があった。</p> <p>②胃がん部会: 六車委員から、平成30年度胃がん部会の第1回目は8月2日に開催された。議題は昨年度の市町村胃がん検診実績、精度管理調査結果、徳島県胃がん検診実施要項について報告・審議された。第2回目の胃がん部会は平成31年1月に開催される予定であるとの報告があった。</p> <p>③大腸がん部会: 岡久委員から、大腸がん部会は平成31年1月開催を予定している。大腸がん部会では、検診受診率の向上を目指した新しいシステム構築を検討しているところであるが、他県の取り組みを含めて再度見直しを行う予定であるとの報告があった。</p> <p>④肝がん部会: 居村委員から、肝がん部会では肝炎患者の拾い上げや治療の実施の推進、制度の充実について毎回行っている。また、肝炎手帳、肝がん手帳と別々となっており使いづらいとの声もあるため、今年度、肝疾患相談室が統一して作成行っているところであるとの報告があった。</p> <p>⑤子宮がん部会: 西村委員から、子宮がん部会は今年度1回開催を行った。部会の中では診療連携についての議題はなかったが、受診率を上げることが常にテーマであるがヒトパピローマウイルスワクチンが打たれていない状況である。ワクチンを打った人と打っていない人とを細胞診の異常に頻度がどう</p>	

であるのか調べた結果、徳島県でも打っていない人の細胞診の異常頻度が高いとのデータとなった。ヒトパピローマウイルスワクチンの再開をお願いしているとの報告があった。

- ⑥前立腺がん：金山部会長から、前立腺がんに関しての部会はない。診療連携として徳島県医師会共催「第1回前立腺がん市民公開講座INにし阿波」を美馬市で開催を行い、多くの市民の参加者があった。今後は県南部や県西部でも開催を行いたいとの報告があった。
- ⑦食道がん・甲状腺がん：滝沢会長から、食道がん、甲状腺がんの部会はないが、治療の記録ノートを作成し、クリティカルパスを使用出来る体制を行ったとの報告があった。
- ⑧乳がん部会：日野委員から、乳がん部会については昨日開催されたが、特に問題はなく連携もうまくできているとの報告があった。

金山部会長から、各がん部会の開催は1月開催が多いため、次回の徳島県がん診療連携協議会診療連携部会は各がん部会が終わってから開催を行いたいとの要望があった。

宮本委員から、4年間を遡り議事を読んできたが、記録ノートの配布内容も少なく毎年内容が変わらない。今年度の部会はまだ開催されていないとのことのため、この状況をいかに打破するか期待したいとの意見があった。

金山部会長から、各部会にご指摘を真摯に受けとめて、止まらず発展するように努力をしていきたいとの意見があった。

【議題2】各拠点病院における地域連携クリティカルパスの活用状況、手帳の運用状況について各拠点病院から、別紙資料1に基づき連携保険医療機関届出施設数とがん治療連携策定料加算件数の報告があった。

- ① 徳島大学病院福森委員から、がん治療連携計画策定料加算件数は平成30年4月からの算定は、胃がん4件、肺がん・乳がんが各3件、前立腺がんが1件である。これは連携が出来ていないわけではなく、システム上で点数として取れていないのが現状である。がん患者指導管理料1・2に関してはがん放射線看護認定看護師1名、がん化学療法看護認定看護師2名、がん緩和ケア看護認定看護師1名、乳がん看護認定看護師1名、がん看護専門看護師4名と増えたことにより算定が増加傾向である。外来がん患者在宅連携指導料についても医師からの依頼のもと、がん相談支援センター相談看護師・緩和ケアセンター看護師・MSWらと連携しながら算定を行っているとの報告があった。手帳の運用については様々なセミナーなどでも配布を行っている。連携保健医療機関については、毎年、連携保健医療機関は増えてきているとの報告があった。
- ② 徳島県立中央病院広瀬委員から、がん治療連携計画策定料加算件数は平成30年4月からの算定は胃がん10件、大腸がん20件、肺がん30件、乳がん2件、食道がん1件、婦人科がん4件、前立腺がん32件となっている。毎年増えてのではなく横ばいのため、今後も増やしていくためには認定看護師などの人数を増やすなど運用を考えていかなければならない。がん患者指導管理料についても、がん放射線看護認定看護師が1名いるため算定している。治療の記録ノートについては、外科の術後の患者さんに配布を行っている。連携保険医療機関数はほぼ連携していただいたため今後はそれほど増えないであろうとの報告があった。
- ③ 徳島赤十字病院石倉委員から、他院に比べ算定できていない。診療では連携を行っているが件数として表れていないため、事務や病院としての取組を見直す必要がある。治療の記録ノート配布については、開封もされず送付されてきたままであった。連携保険医療機関数は、県南部のため少ないが、日赤学会で聞いたところ、病院長と事務が頼みに行っているとの病院が多くあり、当院ではがんに関する理解が少ないため体制を変えていかなければいけないとの報告があった。

寺嶋委員から、当院も前センター長からも進めてきたが算定まで数年かかっている。事務から件数報告などを会議で行い、どのようにすれば算定できるのかなどを考えながら少しずつではあるが件数が増えてきたとの報告があった。

金山部会長から、県立中央病院は件数が多いため見習う必要があるのではないかと意見があった。

- ④ 徳島県立三好病院住友委員から、他の委員からも報告があるように連携が出来ていないわけではない。去年の議事要旨では、がん治療連携計画策定料を算定できるよう事務が徳島県立中央病院に出向き、方法等を勉強し今後開始する予定で動いているとの報告があったが出来ていない。病院長として連携していただけるよう地域の病院に出向いて算定の件数報告ができるようにしていきたいとの報告があった。
- ⑤ 徳島県鳴門病院漆川委員から、特にないが治療の記録ノートについては災害時の事項が記載されたため配布しやすくなり、患者さんにも受け入れていただけるようになったとの報告があった。

宮本委員から、毎回いろいろな講演会などでは治療の記録ノートは自分の命を守るために使用していただきたいと言われている。災害対策研修会では持ち出しするトップはスマホ携帯電話と財布であり、スマホ携帯電話にはいろいろな情報が入れておけると言われているが、年配の患者さんにはスマホが使えない方が多く、今後も治療の記録ノートの普及に努めていただきたい。また、患者側も必要であることの認識をしていただく必要があるため、患者会としてもがん患者さんや家族の方にも広めていきたいとの意見があった。

- ⑥ 徳島市民病院日野委員から、がん治療連携計画策定料加算件数は0件であり算定が難しい。がん患者指導管理料1については8件であった。緩和ケア認定看護師がついて算定している。治療の記録ノートの配布については、乳がん看護認定看護師が乳がんの配布を行っていたが仕事量が増えて配布するまで至っていないのが現状である。婦人科がんの配布は出来ているとの報告があった。

金山部会長から、がん治療連携計画策定料加算については事務的な手続きもあり難しいのが現状である。連携保険医療機関数をみればかなりの施設と連携を行えているため、実際は連携が出来ている。治療の記録ノートについては今年度より非常にコンパクトで使いやすく作成したため、活用していただきたいとの要望があった。

山口委員から、資料からみると治療の記録ノートの配布数が各病院の患者数が記入されていないため、どの程度の割合で配布されているのかわかりづらい。胃がんの患者数が何人中、何人に渡したなど母数が記入されていれば進捗状況がわかりやすいのではないかと意見があった。

金山部会長から、誰が管理するのか、医師・看護師などは外来業務が煩雑なため、なかなか難しいのではないかと意見があった。

寺嶋委員から、徳島県立中央病院が近年算定出来てきたのは外科外来についている医師事務補佐や外来看護師が催促して、医師に配布するようなシステムが構築できてきたからであるとの意見があった。

金山部門長から、がん治療連携計画策定料加算が算定できれば、治療の記録ノートも必然的に配布するようになってきているため、各がん診療連携拠点病院はがん治療連携計画策定料加算を算定できるよう努力をしていただきたいとの要望があった。

【議題3-1】 徳島大学病院がん診療連携セミナー開催報告について

金山部会長から、別紙資料「徳島大学病院がん診療連携セミナー」について報告があった。

- ①平成30年7月26日(木)19：30～21：00徳島県医師会で徳島県がん診療連携協議会、徳島県医師会が共催で開催を行った。
- ②内容はがん遺伝子診断外来や診療連携に関する内容で行った。
- ③当日の参加者はアンケート結果にもあるように71人の参加があった。
アンケート結果は資料を参照。

【議題3-2】 徳島県民がんフォーラム開催報告について

金山部会長から、別紙資料「徳島県民がんフォーラム2018実施報告書」について報告があった。

- ①平成30年9月9日(日)13：30～16：00徳島大学大塚講堂で徳島県がん診療連携協議会診療連携部会、情報提供・相談支援部会、緩和ケア部会が主催、徳島大学病院がん診療連携センターと徳島新聞社が共催で開催を行った。
- ②内容は「がんとうまく付き合う患者術・生活術」で主治医との向き合い方、食事、就労支援、がん相談支援センターなどについて行った。
- ③当日の総来場者は620人(事前申込が464人、当日受付156人)と非常に多数の参加があった。
アンケート結果は資料を参照。

宮本委員から、当日はポスター展示やリレーフォーライフの募金箱を設置させていただいた。寄付金を約9000円いただいた。がん患者さんからの相談等もあり非常に良かった。引き続き次回からも参加をお願いしたいとの要望があった。

金山部会長から、今後も徳島県がん診療連携協議会全体で徳島県民の方々に周知をする必要があることから、継続して毎年市民公開講座を行いたいとの要望があった。

【議題4】 その他

①治療の記録ノート・肝がん手帳の作成

居村委員から、先程も肝がん部会報告でも伝えたが肝炎手帳、肝がん手帳と別々となり使いづらいとの声もあるため、今年度、肝疾患相談室が統一して作成を行っているところであるとの報告があった。

金山部会長から、今回の資料の中に前年度末に作成を行った肺がん・甲状腺がんの治療の記録ノートを同封している。今回からサイズも小さくして持出し用ケースも作成したとの報告があった。

続けて金山部会長から、治療の記録ノートに何がんか表記されていないため、少しわかりづらいのではないかととの意見があった。

寺嶋委員から、渡すときにどの手帳かわかりづらく、表に胃がんなら胃と記入しているとの報告があった。

金山部会長から、なぜ表記されていないのかとの質問があった。

徳島大学病院宮越事務補佐員から、作成当初に治療の記録ノートにがんと記載されているのは患者さんにとって、他の方に知られたくない方もいるのではないかととの意見があり、がん患者さんに配慮して作成を行ったとの回答があった。

金山部会長から、文章を読めばがんの種類かわかるが、色分けだけで非常にわかりづらい。患者さ

んからの立場として意見はどうかとの意見があった。

宮本委員から、事務局から患者さんに配慮して表記されていないとの説明があったが、少しわかりづらい。持ち帰り検討をしたいとの回答があった。

金山部会長から、臓器を表記するなどをしてわかりやすくするなど今後の検討課題としたいとの要望があった。

徳島大学病院宮越事務補佐員から、乳がん手帳については裏表紙にピンクリボンの挿絵を入れてわかりやすくしているとの補足があった。

金山部会長から、わかりやすい目印やマークなど考えていきたいとの意見があった。

②第3期がん対策推進基本計画、指定要件の見直しについて

滝沢会長から、平成30年3月に第3期がん対策推進基本計画が閣議決定された。第3期になりがんゲノム医療やAYA世代のがん医療の充実が盛り込まれた。また、がん診療連携拠点病院等における指定要件の見直しがあった。各がん診療連携拠点病院は申請手続きを終わられたと思うが、これに基づく現況報告書の内容に関しては項目が多岐にわたり、当院でも事務局から各部署の担当医師に問い合わせを行うなどしていることから全体像が見えにくいところもある。今回はがん医療のさらなる充実として保険適応外の治療に関する事前審査ということで、がんゲノム医療や免疫療法治療などが該当する。病院完結型から地域完結・循環型医療として病院一体でのがん相談支援センターの周知について、患者会の方からもまだまだ周知が足りないのご指摘をいただいている。また地域連携については、先程から議論されているクリティカルパスの整備等である。がん教育への協力について、平成32年から教育要綱が変わり小学校、中学校、高等学校にがん教育が義務化される。この授業を外部講師として各先生方にも協力をお願いすることとなる。その他、診療実績として緩和ケアの実施件数の要件化、緩和ケアチームの体制など多数の見直し案とされている。また、要件を満たしていない場合の指導として指定要件の未充足が確認された場合は勧告や指定取り消し等が検討されるため内容を確認いただきたいとの報告があった。

徳島大学病院宮越事務補佐員から、今回資料として提出した指定要件見直し(案)は、現在(案)しかホームページに掲載されていないため指定要件見直し(案)となっている。今回、厚生労働省からきている現況報告もほぼ項目内容は同じ内容の新要件に基づくがん提供体制の調査であった。がん診療連携拠点病院の申請手続きも先日届けたとの説明があった。

徳島大学病院三木看護師長から、先週都道府県がん診療連携連絡協議会緩和ケア部会に出席していたが、緩和ケアに関しても概ね見直し案のとおりであった。新要件の準備段階で準じているということでも構わない、拡大解釈でいいのではないかと意見等もあったとの補足があった。

寺嶋委員から、徳島県立中央病院も高度型の地域がん中核拠点病院(仮称)を申請しているとの報告があった。

徳島県健康増進課原田課長補佐から、がん診療連携拠点病院の申請書類を各病院からいただき、国への申請手続きを現在行っているところである。平成31年2月3月頃に審査会で判断される予定である。申請に関して細かい質問等を行っているが、検討会で決めるため、何も回答できないとの返事があったとの報告があった。

寺嶋委員から、別紙資料「アドバンス・プランニング・ケア」パンフレットについて徳島県立中央病院が中心となり作成を行った。運用はこれからであるが、今後使用したいとの報告があった。

徳島大学病院三木看護師長から、以前にも相談をさせていただいたが、このパンフレット裏面には徳島県の4病院(徳島県立中央尾病院、三好病院、海部病院、鳴門病院)で普及に取り組んでいると記載

されているが、内容が非常に良いことから今後は徳島県全体として使用させていただくことは可能かどうかの質問があった。

寺嶋委員から、徳島県として使用してもよいか徳島県の事務方に問い合わせを行っているとの回答があった。

金山部会長から、貴重な意見をいただいたため、来年の開催までに結果を出せるよう努力をしていただき、診療連携を深めていただきたいとの要望があり閉会となった。